



尾道商業会議所記念館

第38回企画展示

尾道マッチ今昔物語

2020（令和2）年5月29日～10月28日

展示解説

実用品を兼ねた小さな広告媒体として、広く親しまれたマッチ（広告媒体としては広告マッチと括られる）— そこにはお店の宣伝広告を始めとして、多種多様な図柄のマッチが見られ、手描きのものによっては芸術性・デザイン性に富んだものも少なくありません。また、コレクターズ・アイテムを意識したものも見られるなど（シリーズ・マッチ）、マッチラベルの世界は実に奥の深いものがあります。

そもそも国内でマッチが普及するようになるのは、マッチの国産化が始まった明治時代の初頭（1876・明治9年）からで、日本のマッチは輸出品としても花形の一つになったようです。

企業やお店の広告マッチが登場するのは大正辺りからで、大手百貨店から地方の喫茶店まで、広告マッチは全国各地・広範囲に出回り、人々に馴染み親しまれる存在となりました。

ビジュアル性豊かでバラエティに富んだ広告マッチは、切手蒐集等と同じくコレクションの対象ともなり、明治の終わりには落語家ら文化人・著名人達が発起人となって愛好家組織（日本燐枝錦集會）も立ち上がり、マッチ蒐集は大きな拡がりを見せていきました。

今回はそうしたコレクター（尾道在の蒐集家複数で何れも故人）が蒐集したマッチラベル・コレクションの遺品から、ありし日の尾道今昔風景を掘り起こしてみたいと思います。

今も続く老舗から、今は無きあの店・この店…当時を知る人には懐かしく、当時を知らない人には新鮮に映るマッチラベルの世界と、それを通して浮かび上がる尾道今昔をどうぞお楽しみください。



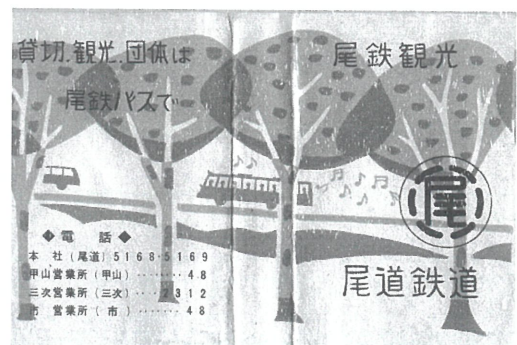
音楽茶房 孔雀荘 西土堂町

両廬喫茶として今に親しまれる孔雀荘は、尾道に暮らした画家・小林和作ら文化人のサロンでもあった。



広東料理 蓬萊 土堂2丁目

中央棧橋前にあった中華料理店。片面は第12回尾道大菊人形展（昭和43年）のPR。



尾道鉄道・尾鉄観光

尾道と御調を結んだ私鉄・尾道鉄道が運行した観光バスの広告マッチ。

マッチで辿る尾道今昔

尾道における広告マッチをコレクション中から整理・概観して見ると、飲食店が最多の数量を見ます。飲食店を更に分類して見ると、喫茶店とナイト・スポット（バーやクラブなど夜のお店）が圧倒的な数を占めています。

他地域の広告マッチについても同様の傾向にあるようですが、マッチを通して喫茶店やナイト・スポットの全盛期がここに偲ばれてきます。

喫茶店については、昔ながらの純喫茶から最近型のお洒落なカフェまで、今日でもあちらこちらに見受けられますが、広告マッチの全盛期（およそ昭和30～50年代）は更にその数が多かったようです。

カラフルな孔雀の絵が一際目を惹く喫茶「孔雀荘」（尾道駅裏で現在も営業）は、尾道市名誉市民の画家・小林和作や、和作の薫陶を受けた劇作家の高橋玄洋氏らを始めとする地元の文化人にも愛された名店の一つで、お店の前にはその昔、尾道にも足跡を伝える俳人・種田山頭火の句碑も建てられていました（碑は現存せず）。

画廊喫茶（絵画作品の展示即売を併設）として知られる「孔雀荘」ですが、マッチには「音楽茶房」とあり、音楽を楽しむ喫茶でもあったようです。この音楽喫茶の趣向は当時の流行だったようで、「名曲 LP RECORD 演奏」の「純喫茶琥珀」や「フチャヤ」、「名曲喫茶・立体音響」の「田園」などにも見られます。

また、「珈琲かどよし」の「テレビ受像」というのも、カラーテレビの普及時期（1960年代以降）のものと思われ、テレビ設置がお店の売り（アピールポイント）にもなったようです。

尾道のナイト・スポットと言えば、旧市街の東・久保新開地区を中心としたエリアで、広告マッチも新開と隣接する新地周辺のものも多く見られます。

江戸時代から遊郭や芝居小屋で賑わった尾道町の一大歓楽街である新開の歴史は、近世から近代、そして現代へと厚みと深みを持ち、お店の今昔についても、どこか物語性を感じさせるものがあります。

その建物が多くの人を惹きつけた「舶来居酒屋 暁」は、広告マッチも惹きつけさせるものがあり、秀逸なキャッチとデザインセンスに優れた逸品です。



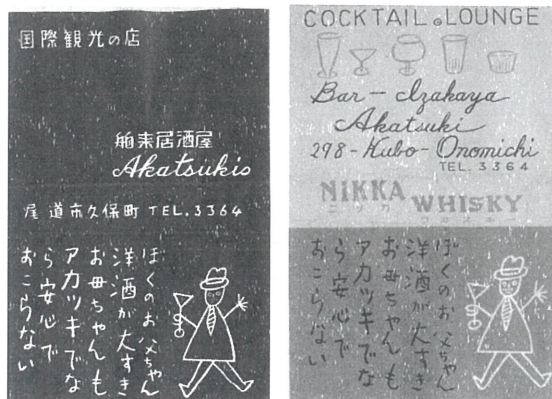
珈琲 かどよし 土堂二丁目

テレビ受像が時代を感じさせる。本局は土堂木通りの尾道郵便局（本局）を指す。



純喫茶 琥珀 久保一丁目

クリスマス仕様のデザイン・マッチ。千日前は新開に接する映画館街になる。



舶来居酒屋 暁 久保新開

キャッチコピーが何ともほほえましい。



純喫茶 リオ 土堂二丁目

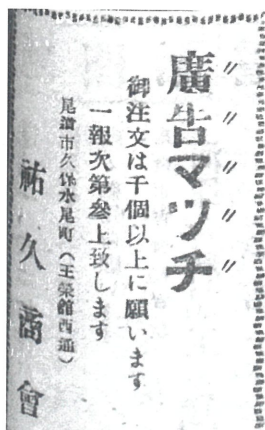
渡し場海岸通りで今も続く老舗。絵画や写真の展示が定期的に行われている。

尾道のマッチ工場

華やかな広告マッチの実用部分である、マッチ本体を製造する工場が尾道市内（旧市街）にもありました。西久保町に所在した「光洋燐寸工業株式会社」がそれで、元工場長の証言によると、同社は1947（昭和22）年5月から稼働し、尾道のマッチ工場として親しまれたようです。

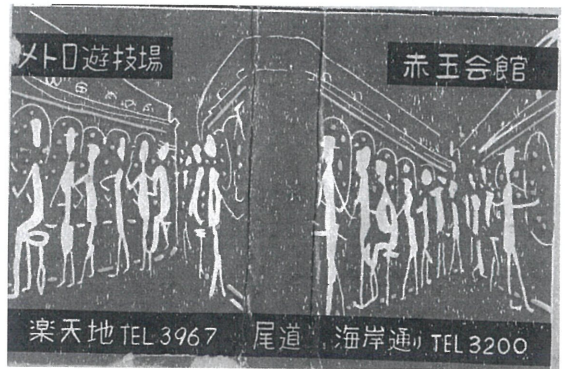
全国優良マッチ品評会で第3位に入賞する成績も収め、昭和40年代には新工場も稼働させ、マッチの頭薬（とうやく）（先端の着火薬）の無公害調合を完成させるなど、研究・技術改良にも努められたそうです。

マッチ本体の工場と共に、広告マッチの制作を請け負う業者も旧市街に見られたようです。「山陽日日新聞」の1949（昭和24）年2月3日付の広告欄に見える、【久保水尾町（玉榮館西通）祐久商会】がそれです。尾道造酢角から海岸通りへ通じる水尾小路沿いに所在した事は、地元住民の証言からも聞かれました。ちなみに「玉榮館」は当時この近辺に存在した映画館の一つです。

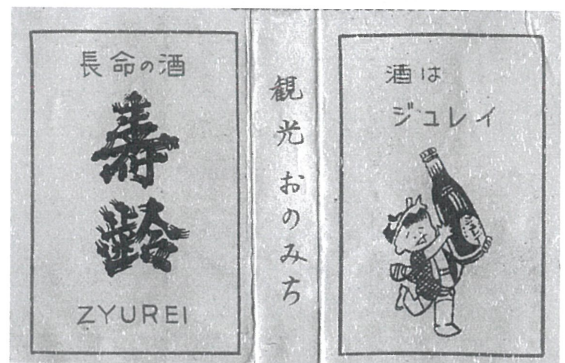


キャバレー コロナ 久保新開

尾道の歓楽街・新開の有名店として語り継がれ、マッチに限らず地元紙への広告も頻出している。

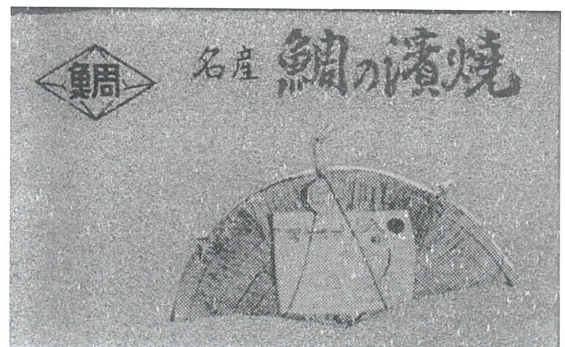


外口遊技場/久保二丁目 赤玉会館/土堂二丁目
パチンコ店の広告マッチで系列店との共用型になっている。



尾道の地酒「壽齡」

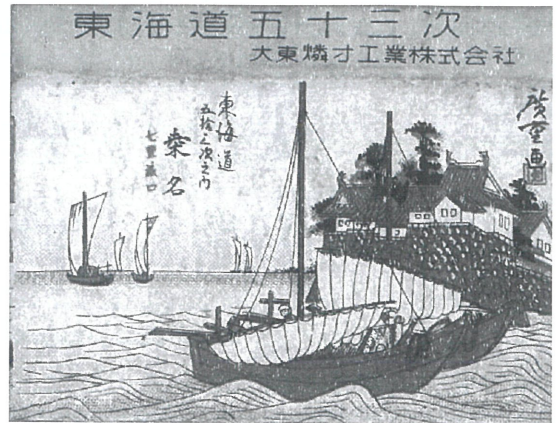
「壽齡」は三軒家町の吉源酒造場で造られた地酒の銘柄。



名産鯛の浜焼き（ウオスエ浜焼店）東御所町
尾道の郷土料理として知られる鯛の浜焼を扱ったウオスエの広告マッチ。



中国観光風景シリーズより尾道



東海道五十三次シリーズより桑名

コレクション・マッチ

コレクターズ・アイテムとしてのマッチラベルの存在を浮かび上がらせるものに、シリーズモノのマッチラベルがあります。シリーズ・マッチは主にマッチの製造会社から出されたもので、そのレパートリーはかなりの数に上ります。今回用いたコレクションからシリーズ・マッチをピックアップしてみると、ざっと次のような種類が見られます。

◆ 風景・建築物

日本の風景、日本のこころ（富士）、京の旅情、世界の旅、名橋、名塔 …

中国観光風景、ふるさとの四季

◆ 美術工芸

浮世絵（東海道五十三次等）、世界名画、油絵、陶器、博多人形、兜 …

◆ 自然・植物

世界の山と高山植物、花のある風景、四季の花、郷土の花、生花、盆栽 …

◆ 交通

のりもの、SL …

◆ 音楽

民謡、わらべ唄、愛唱歌、懐かしのメロディー歌は生きている …

◆ 歴史・文化

日本の時代風俗、百人一首、俳句、川柳 …

◆ その他

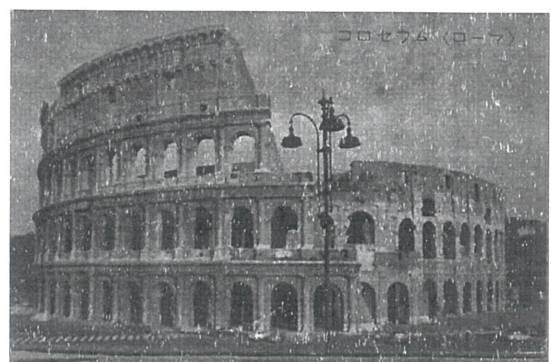
万博（大阪万博）、ドラマシリーズ（元禄太平記）、日本の郷土玩具、福の神、わらべ人形、熱帯魚、魚、世界の子供、交通安全 …



盆栽シリーズより五葉松



兜シリーズより織田信長



世界の旅シリーズよりコロセウム（ローマ）